

**平成 28 年度 北農賞**  
(昭和 15 年創設 第 77 回)

○品種育成：大豆「ユキホマレR」、「とよみづき」、「ユキシズカ」、「ゆきぴりか」の育成

鈴木 千賀、山崎 敬之、田中 義則、黒崎 英樹、萩原 誠司、  
大西 志全、三好 智明、山口 直矢、富田 謙一、土屋 武彦、  
松川 勲、白井 滋久、湯本 節三、白井 和栄、角田 征仁 殿  
(地方独立行政法人 北海道立総合研究機構十勝農業試験場)

(1) 北海道は約 3 万 ha の大豆が栽培されている国内の主要な産地であるが、道産大豆需要拡大のため、収量・品質の高位安定、加工適性の向上、新商品の開発など実需および生産サイドから多様なニーズがあげられており、これまでも国産大豆の主要な用途（豆腐・納豆・味噌）向けの品種を育成し、道産大豆の生産者と品質向上に寄与してきた。

(2) 「ユキホマレR」は、主力品種「ユキホマレ」に DNA マーカーを利用して、ダイズシストセンチュウ抵抗性（レース 1）を導入した豆腐用途品種で、農業特性、加工適性が同等であることから平成 27 年の栽培面積は、約 1,300ha でさらに拡大している。「とよみづき」は、生産面では「ユキホマレ」の低温年での成熟の遅れや粒の裂開、加工面からは豆腐にした際にやや固まりにくいなどの欠点を改良し、平成 22 年に優良品種に認定され、平成 27 年の栽培面積は約 1,400ha と普及が順調で、さらに大きく拡大すること見込まれる。

(3) 「ユキシズカ」は、納豆用小粒大豆として平成 13 年に優良品種に認定された。収量は「スズマル」並からやや多収で、粒大はやや小さく、納豆加工適性は同品種並みに優れる。熟期は早く、耐冷性、センチュウ抵抗性であることなどが評価され、平成 27 年の栽培面積が 5,000ha を超え、同用途品種の約 70%となっている。

(4) 「ゆきぴりか」は、大豆の機能性成分で骨粗鬆症改善やがん予防に効果があるとされるイソフラボンを従来品種より 1.5 倍多く含み、加工業者からその特性を活かした商品開発が期待され、平成 18 年に優良品種に認定された。道総研研究機関と道内味噌メーカーの共同で米味噌が商品化され市販されている。平成 27 年の栽培面積は約 140ha であるが、様々な商品が開発・販売されている。

以上の 4 品種は、日本食の伝統的大豆食品用途として開発され、それぞれ順調に栽培面積が拡大しており、農業経営の向上および道産大豆の高品質・安定生産に寄与すると同時に、各用途の大豆食品の消費拡大に大きく貢献することが期待される。